

次期奈良県環境総合計画策定に係る環境計画策定部会（第４回）議事録

1. 開催日時：令和７年 11 月 18 日(火) 10:00～11:35
2. 開催場所：奈良商工会議所 ５階 中ホール（Web 併用）
3. 出席者：
 - ・環境計画策定部会専門委員：８名
増田部会長、岡崎委員、佐藤委員、谷委員、中澤委員、長島委員、藤井委員、水谷委員
 - ・事務局：12 名
(奈良県環境森林部 水・大気環境課、脱炭素・水素社会推進課、
景観・環境総合センター（気候変動適応センター）、廃棄物対策課、
景観・自然環境課、森林環境課、食農部豊かな食と農の振興課)
4. 傍聴者等：なし
5. 議題：（１）次期奈良県環境総合計画の策定について
 - ・奈良県環境総合計画（2026-2030）（案）
 - ・奈良県環境総合計画（2026-2030）概要版（案）（２）その他
6. 配付資料：資料１ 第３回部会におけるご意見への対応について
資料２ 奈良県環境総合計画（2026-2030）（案）
資料３ 奈良県環境総合計画（2026-2030）概要版（案）
(参考資料)
参考資料１ 環境計画策定部会設置規程
参考資料２ 環境計画策定部会委員名簿
7. 議事概要：

事務局より、（１）次期奈良県環境総合計画の策定について、説明がなされた後、審議が行われた。主な質疑については以下のとおり。

【質疑応答】

◎増田部会長

本計画の審議では、これまで皆さんからたくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。有益なご意見ばかりで、本来であれば全て取り入れたいところですが、すべてを盛り込むことができなかった点については、ここでお詫び申し上げます。ほとんどのご意見は反映できていると思いますが、いただいたご意見がすべて反映できているか心配な部分もあります。それだけやりがいのある計画だと感じています。

本計画に反映できなかったご意見の内容については、それぞれの分野別の実行計画等で反映していただければと思います。

本日お示しする計画案は、ほぼ最終案に近いものです。この後、パブリックコメントを経て、奈良県環境審議会でご承認いただき、策定という流れになります。本日もご意見をいただきたいと思いますと思いますが、内容を大きく変更することは難しい点をご理解いただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

□事務局

(資料に基づき説明)

◎佐藤委員

40 ページの本文をご覧いただきたいのですが、一番上に事業例があります。下の方には「カワウの生息状況調査、駆除及び防除対策」と記載されています。

昨今、ツキノワグマの被害が大きな話題になっており、先月、県として「奈良県ツキノワグマ保護管理計画（第6次計画）」を公表したところです。東北など各地の状況を見ても、奈良県でも今後5年、10年のうちに同様の状況になる可能性があるとは思っています。そうした流れを踏まえると、この事業例の欄に、ツキノワグマに関する内容を加えていただけるとありがたいと考えています。

40 ページの事業例のところには「カワウ」を例として挙げていますが、ここを「有害鳥獣」といった表現に置き換える、あるいはツキノワグマの保護管理に関する文言を追加するなどの対応が考えられます。この計画期間中の5年間で、ツキノワグマに関する話題は頻繁に取り上げられることになると考えますし、一般の方も心配されている状況です。県として対策を検討しているという一文でも構いませんので、何らかの形で記載していただくのが良いのではないかと感じました。

□事務局

担当課への確認が必要ですが、事業例にある「特定鳥獣管理計画に基づく対策の実施」の中にツキノワグマ保護管理計画も含まれていると思います。その中でも、ツキノワグマなど、

最近大きな被害が出ているものや話題になっているものを、個別に取り上げた方が良いでしょう。

また、こちら関係課が本日不在で確認できていないのですが、カワウは特定鳥獣管理計画に入っていないため、個別に取り上げているのではないかと考えています。

◎佐藤委員

わかりました。特に必ず記載してほしいというわけではありませんが、これからの5年間でツキノワグマの問題はおそらく様々な場面で出てくると思いますので、少し触れておいても良いのではないかとこの程度の意見です。

◎増田部会長

自然生態系分野の事業例には、「特定鳥獣管理計画に基づく対策の実施」が上から何番目かに入っていますので、関係課の方に「ツキノワグマも含まれている」と確認できれば、特別に記載しなくても大丈夫だと思います。

◎水谷委員

修正いただいた部分について、いくつか気づいた点をコメントさせていただきます。まず、39ページについてです。

前回（第3回）部会において、「大台ヶ原に限定した表現はおかしい」と指摘した箇所について、「県内の山岳地で」という表現に変えていただきましたので、そこは問題ありません。ただ、ニホンジカの活動域の拡大の理由について、「積雪量の減少による」とだけ書くのは適切ではないので、「積雪量の減少「など」による」というように、複数の要因があることを示した方が良いでしょう。

それから、非常に細かい点ですが、9ページの図2-2「世界・日本・奈良県の年平均気温偏差」の世界と日本のグラフは100年前のデータがあるため「100年で・・・」という表現で問題ありませんが、奈良県のグラフは100年前のデータがないため、「100年で・・・」ではなく「100年あたりで2.3℃上昇している」という書き方が適切ではないかと考えます。

以前確認した際には、他の図ではこの点を正確に記載されていた記憶がありますので、ここも「100年あたり」と表記を揃えた方が良いでしょうと感じました。

さらに、その下の図2-3「ソメイヨシノの開花日」のグラフですが、これは「平年差」のグラフであるので、グラフタイトルの字が違っているように思われます。確認をお願いします。

あと2点ほどあります。前回も意見を申し上げましたが、14ページの「計画の対象」の図についてです。この図を示す必要があるのかという点をお伝えし、ご検討いただいたとこ

ろ、「環境分野の種類や範囲、さらにそれらの関係性をイメージしやすくするために図示した方が良い」というご意見でした。

ただ、この図に示されている「生活環境」、「自然環境」、「快適環境」、「地球環境」という言葉は、このページにしか出てきません。個別の施策のページでは、それぞれ別のタイトルが付いています。にもかかわらず、ここでわざわざ4つの環境区分を示し、その関係性を図示しています。

歴史的に見ると、「生活環境」は公害問題を指し、それ以外に「自然環境」の話から環境行政が始まり、その後アメニティに関する「快適環境」の概念が加わり、さらに「地球環境」の問題も出てきております。環境行政に携わる者にとっては、このような順序で課題が整理されているのだと思いますが、一般の方はそのような歴史や区分で理解しているわけではありません。

また、後の分野別施策のところで「脱炭素社会の構築」、「森林環境の維持向上」、「生物多様性の保全・再生」、「循環型社会の構築」、「地域環境の保全」と、分野別に整理して示しています。一般の方の理解については、それで十分であり、この図を最初の「計画の対象」のページで別途示す必要性は低いと感じています。

この図を削除するとレイアウト調整などが大変かもしれませんが、あえて環境分野を4区分に分けて説明しているようにしか見えず、今回いただいた対応コメントからも、この図が必要である積極的な理由は感じられません。むしろ混乱を招く可能性があると考えますので、この図は掲載しない方が良いのではないかとというのが私の意見です。

それからもう一点ですが、59ページの生態系サービスの持続可能な利用のところで、「公共事業・地域開発・企業活動における生物多様性の配慮」という記載があります。もともとの文章が悪いというわけではなく、環境影響評価のことしか書かれていなかったため、企業活動における生物多様性への配慮などの内容を追加できないかという意見を申し上げました。

今回修正いただいた文章を見ると、確かに「生物多様性なら戦略」から引用されていることは理解しています。しかし、SDGs目標8に関連づけた現在の記述は分かりづらく、またディーセント・ワークに関する部分も別の表現に置き換えた方が良いのではないかと思います。

むしろ、第3回の部会で書かれていた環境影響評価についての記述を行った上で、「企業活動にあたっては、自らの事業活動が生物多様性に与える影響を評価し、配慮することが重要である」という一文があれば十分ではないかと感じます。

これは、10年以上前からある「生物多様性民間参画ガイドライン」にも記載されております。このガイドラインの考え方に沿って、企業活動における生物多様性への配慮について簡潔に書くのが良いと考えます。

エコラベルに関する記述はそのままでも良いと感じます。

以上、いくつか申し上げましたが、よろしくお願いします。

□事務局

先程ご説明したとおり、この図が一般の方々にとって分かりやすいかどうかという点がありますが、生活環境や自然環境などの分野が相互に関連していることをイメージしていただきたいという思いで、この図を掲載しているので、引き続き掲載させていただきたいと考えています。

◎水谷委員

分かりやすい図であれば良いのですが、必ずしも分かりやすいとは思えません。「生活環境」と「自然環境」がまったく別々のもののように見えますし、「快適環境」は「生活環境」ではないのかといった疑問も生じます。この図を見て理解しやすいかと言われると、そうは思えません。

現行計画では、この図に「地域環境」という別の分野が入っていたと記憶しています。

今回は構成を変えてまでこの図を載せていますが、何を説明したいのかがやはり分かりません。

この図を積極的に残さなければならない理由があれば別ですが、以前からあるから何となく載せているという状況であれば、見直して良いのではないのでしょうか。おそらく当初は、環境行政の中でいくつかの分野が独立しており、それらを総合的に扱うという意図があって作られた図だと思いますが、現在ではこの分類自体もあまり使われていませんし、分野別施策のページではこの図とは異なる分類で施策を示しています。また、この図における分類と、分野別施策との関係も説明されていません。

以上の理由から、この図を残す意義はあまり感じられません。特段残す必要がある理由があればご説明いただきたいと思います。

◎岡崎委員

教育関係では、よくこのような図を用いることがあります。もしこの図を残すのであれば、円と円が重なっている部分に何が含まれるのかを示す必要があると思います。

例えば環境教育の場合、よく3つの円を描いてその重なり部分に入る要素を示して説明します。今回の図も同様で、重なりの部分に具体的に何が入るのかを示せば、図として活かせるのではないのでしょうか。

この図を残すことにこだわりがあるのであれば「重なり部分の意義」を明確にすることで、図の説明しやすさ、わかりやすさの価値が出るのではないかと考えます。以上、意見として申し上げます。

◎水谷委員

私もこの図の「重なり部分」が非常に気になっています。そこを説明できる図であれば良いのですが、今回の図はその重なりを説明しようとしていないように見えます。「生活環境」は「自然環境」の一部でもありますし、円の関係性を考え始めると、実はこの図は描けないことが分かると思います。それを無理に描いてしまうと、単にこのような分野がありますと並べただけの図になってしまい、図としての意味を持たなくなります。

また、先ほど岡崎委員もおっしゃったように、「この重なりは何を意味するのか?」、「3つの円が重なる部分には何が入るのか?」と考え始めてしまい、かえって分かりにくくなります。この図があることで、理解の促進に役立つのであれば良いのですが、むしろ全体像が分かりづらくなる懸念があります。

そのため、積極的にこの図を掲載する意義があまりないのであれば、この図を掲載することにこだわる必要はないのではないかと感じました。

◎増田部会長

難しいですね。この図だけでは十分に説明できませんし、私たちが大学で教えるときにも、このようなフォーマットは使用していません。もっと別の形で、例えば、地球環境・地域環境といった分類でまとめているので、快適環境という区分を入れたことはほとんどありません。

そのため、どう整理すれば良いか悩ましいところだと感じています。

□事務局

前回、委員の方からご意見をいただき、事務局としてもいったん持ち帰って検討いたしました。先ほどご説明したとおり、この計画は一般の県民の皆様に向けた環境総合計画ですので、県民の皆様が頭の中でイメージしやすいよう、図式的な示し方があった方が良いのではないかと判断し、今回も掲載することとしました。

ご指摘のとおり、重なっている部分にどのような意図や意味を持たせるのかは、引き続き検討していきたいと考えています。難しい点ではありますが、改善できるよう考えてまいります。

◎岡崎委員

例えば、快適環境と自然環境との重なる部分に沿道景観を配置するなど、あまり細部にこだわるのではなく、現在の図の中にあるキーワードの中からいくつかを選び、重なり部分に入れていくことで、一般の方にも理解しやすくなると思います。

景観の快適さは、自然で豊かな環境に関連するものであり、このような要素をうまく組み合わせれば具体性が出て、分かりやすくなると思います。

3つすべてが重なる部分に何を入れるかはすぐには思い付きませんが、2つの円が重な

る部分であれば、現在のキーワードから拾えば十分に当てはまるものがあると思います。

このあたりは事務局で検討いただき、部会長にご判断いただければと思います。

◎中澤委員

今の図を分かりやすくする方法として、例えば「生活環境」という表現を「生活環境の改善」、「自然環境」は「自然環境の保全」という形にしてはどうかと思いました。「快適環境」についてはどのように表現するか今は思いつきませんが。

そして、3つの円が重なる中心部分に配置するのは「県民生活」であると思います。この計画によってそれらを達成することで、この図の上に記載してある基本理念「豊かな自然と歴史との共生、美しい景観と持続可能なくらしの創生」につながるという構図が示せます。この図の中心から基本理念へ向かう上向きの矢印を付けると、県民の皆さんにもこの計画は何を目的としているのかということがより伝わりやすくなるのではないかと考えました。

以上、意見としてご検討いただければと思います。

◎谷委員

92 ページ以降に、世界・日本・奈良県の現状および将来予測として多くの資料を掲載いただいており、現状を認識する上で大変有益だと思います。

ただ、世界の現状・将来予測（93～94 ページ）で掲載している IPCC 第 6 次報告書に基づく図表においては「1.09℃上昇」や「最大 5.7℃の上昇予測」といった説明が示されている一方、日本の現状・将来予測（95 ページ）ではグラフだけが示されています。グラフの上には文章で説明が記載されているため、そこを読めば良いのですが、9 ページに掲載されている同じグラフには「100 年で 1.4℃上昇」などの吹き出しが付けられており、グラフをどのように読めばいいのかが伝わりやすくなっています。参考資料（95 ページ）のグラフにも同じように吹き出しを付けて、このグラフから何を読み取って欲しいのかを示した方が、より分かりやすいのではないかと思います。

学術関係の方であれば読み取れる内容かもしれませんが、一般の方には読み取りづらいため、「この図はこういう意味で載せています」という意図が分かるように工夫すると良いと感じました。

また、IPCC（第 6 次報告書）の図はデータの最終年が 2020 年で、情報が少し古い印象もあります。日本のグラフは 2024 年が最終年となっています。今年の夏は非常に暑かったので、もし公的な情報があれば、注釈にでも最新情報を記載することで、より危機意識を持って計画期間の 5 年間で捉えていただけるのではないかと思います。

◎増田部会長

これは問題ありませんので、追記しておきましょう。また、9 ページに、参考資料を参照するように記載しておけば、皆さんが後ろの参考資料にも目を向けるようになるかもしれません。

ません。何も書かれていないと、そのまま9ページだけを見て、後ろの参考資料に目を通さないということになりそうです。

先ほどの「計画の対象」の図については、改めて事務局で検討していただけますでしょうか。現状のまま残す形では少し無理があるため、例えば、重なり部分に景観等のワードを入れることや中澤委員のご提案のように、中心に「県民生活」を配置するという方法も良いかもしれません。難しい部分かとは思いますが、検討をお願いいたします。

◎佐藤委員

先ほど岡崎委員がおっしゃったように、重なっている部分については、この下に記載されている項目の中からいくつか選び、「ここが重なる部分です」という形で示す方法があると思います。また、中心部分には「県民生活」を置くという案も、中澤委員のご意見のとおり妥当だと感じます。

ただ、根本的には私もこの図はおかしいと思っています。もし活かすのであれば、先生方から出たような工夫を取り入れた形でまとめるのが一番良いのではないかと考えます。

◎藤井委員

奈良県の環境総合計画では、これまでこの図を「イメージ」として県民に示してきたのだと思います。細かい点を考え始めると複雑になり、環境に対する捉え方も人によって異なるため、深く考えるほど難しくなっていく部分があります。

この計画改定の主体は県であり、生活環境、自然環境、快適環境そして地球環境といった分野に対して、県がどのような施策を考えているかを示す「イメージ」として捉えれば良いのではないかと思います。

もちろん、もしこの図が絶対的に間違っているのであれば修正すべきですが、これまで計画を見てこられた県民の方にとっては、「こういうものだ」というイメージが頭に残っていると思います。それが大きく変わったり、図自体がなくなったりすると、違和感を持たれる可能性もあります。

最終的な判断は県にお任せしたいと思いますが、もし修正するのであれば、これまでの経緯も踏まえつつ事務局の方で整理していただければ良いのではないのでしょうか。

◎増田部会長

残す場合であっても、修正する場合であっても、最終的な判断は県にお任せすることにししょう。

次に59ページの文章についてですが、先ほど水谷委員から様々なご意見をいただきました。この部分で、不要な文章などはありますでしょうか。かなり文章量が増えてしまったのですが、ご意見いただければと思います。

◎水谷委員

59 ページについてですが、「持続可能な開発目標から・・・」に始まり、「環境に害を及ぼさない質の高い仕事・・・」の段落まで、合計 8 行ほどですが、ここは削除して良いと考えます。

その代わりに、企業活動を進めるにあたっては「生物多様性民間参画ガイドライン」に示されているように、「事業活動が生物多様性に及ぼす影響をしっかりと評価し、配慮しながら事業を進めていく必要がある」という一文を入れると良いと思います。

◎増田部会長

文章が少し長くなっていますので、不要な部分があるのではないかと私も思っていました。事務局いかがでしょうか。

□事務局

はい、そのような形で修正しようと思います。

◎岡崎委員

9 ページ（図 2-3）のソメイヨシノ開花日のグラフについてですが、「平年差」という表現がよく分かりませんでした。おそらく「平年との差」という意味だと思いますが、よく使われる言葉なのでしょうか。グラフの縦軸・横軸が何を示しているのか分かりにくく、このグラフは何を表しているのか理解しづらいと感じました。

左にある雨量の棒グラフのような図であれば、縦軸が雨量や頻度だとすぐ分かりますし、上の平均気温の折れ線グラフは理解できるものの、この開花日のグラフの見方が分かりにくいです。この青や赤の線、黒い点などが何を意味しているのかがすぐには判断できません。

この図は概要版にも掲載されており重要な位置づけのようですので、何を示す図なのか分かるよう、軸ラベルや注記を明確にさせていただけるとありがたいと思います。

◎増田部会長

軸ラベルや注記がないと分かりにくいですね。開花日を黒い点で示し、それを 5 年ごとの移動平均で滑らかにし、そこに直線回帰を当てているのだと思います。一般の方には特に難しいと思います。また、平年差のゼロのラインは、「1991 年から 2020 年までの平均値がゼロ」という意味になります。つまり、その平均値からどれだけ早い、遅いを示しているわけです。本来は、ゼロの位置に太い線でも入っていれば分かりやすいのですが、そうないため理解しづらくなっていますね。事務局の方で修正をお願いします。

◎岡崎委員

続いて、10 ページ「森林は・・・」から始まる文章についてです。

このページでは、「県北部低地」や「山地」といった地理的な用語が、「温帯性落葉広葉樹林」や「亜高山帯針葉樹林」といった生態学用語に混在しているため、用語の使い方について、一度整理していただきたいと感じました。

例えば、生態学の標準的な区分でいえば、一般に「低地帯」、「山地帯」、「亜高山帯」といった区分が用いられます。また、高い山という意味を表現する上で、「高山」という表現はおそらくしないと思うので、「低山」に対応するのは「深山」という表現になると思います。

以上のことを踏まえ、生態学用語に統一するか、もしくは地理的分類にそろえるか、整理をお願いしたいと思います。この部分の文章は概要版でも使用されており、重要なところであると思われるので、用語の統一をお願いします。

□事務局

検討させていただきます。

◎谷委員

11 ページについてです。ここでは、「本県の人口は令和 7 年 10 月現在で 127 万人であり、令和 52 年には約 81 万人まで減少すると予想されています。」とあり、ここから、「世帯の少人数化や高齢化の進展等により、エネルギー消費量やごみ排出量など一人当たりの環境負荷は増加する傾向にあると考えられます。」とありますが、この文章は少し分かりにくいと感じました。

人口が減少するなら環境負荷も減るのではないかと考えて読み進めると、後半で「一人当たりの環境負荷が増加する」という説明になっており、つながりが弱い印象です。

例えば、「世帯の少人数化により世帯数が増加する」、「ICT 機器の普及によるエネルギー消費の増大」など、環境負荷増加の要因をもう少し具体的に示した方が理解しやすくなるのではないのでしょうか。現在の例示では理由づけが弱く、文章としてやや分かりにくいと感じました。

◎増田部会長

人口が減るのにエネルギーやごみの排出量が増えるという説明は、少しおかしく感じられるということだと思います。実際のところ、環境負荷の増加に影響しているのは「世帯の少人数化による世帯数の増加」が大きな要因であり、その点がうまく説明されていないのが問題だと思います。

ここは「世帯数の増加」という表現の方が、読者にも分かりやすいのではないのでしょうか。

◎谷委員

その方が良いですね。また、昨今ではデータセンターの整備などに伴い、電力需要が増加すると言われているので、その点を補足として追加しておくのも良いのではないかと思います。

ました。

◎佐藤委員

62 ページの「(2) 食品ロス削減への対応」についてです。

丸印の 2 つ目に「未利用食品を提供できる事業者と提供を希望する団体等とのマッチングシステム」と書かれています。分かりやすい表現ではあるのですが、一般的にこれはフードバンク活動と呼ばれる取組です。ですので、この文章も「フードバンク」という一般的な名称に記載を統一してはどうかかと思いました。

決して誤った表現ではありませんが、社会的にも広く定着している用語として「フードバンク」や「フードドライブ」が一般的だと考えますので、そのように整理してはいかがでしょうか。

□事務局

ご意見を参考にして検討いたします。

◎佐藤委員

参考資料 90～91 ページの赤字部分について確認させていただきます。

まずは、90 ページ上部の枠内「気候変動・エネルギー」の 3 行目にある「1.5℃目標」についてです。「1.5℃目標」には解釈が複数あり、少なくとも 2 つの意味合いが存在します。分かる人は文脈から判断できるのですが、ここは補足説明を加えた方が、読者にとって理解しやすくなるのではないかと考えます。

次に、90 ページの「資源循環・化学物質」に関する点です。

この欄に「循環経済（サーキュラーエコノミー）」と括弧書きが記載されていますが、下段の「出典及び参考資料」にも「循環経済（サーキュラーエコノミー）」と記載されており、重複感があります。既に上段で説明されているため、下段の表記では括弧書きを外して簡潔にしても良いのではないかと感じました。

また、91 ページの同じ項目「資源循環・化学物質」の 2 行目にも「循環経済（サーキュラーエコノミー）」が再度登場しますので、こちらも括弧書きを省いて整理した方が読みやすいと思います。加えて、ここは「循環経済済」と「済」が重複していますので、修正していただければと思います。

同様に、90 ページ下部「その他」についてです。1 行目に「シナジー」という言葉が登場し、その 2 行下にも「相乗効果（シナジー）」と記載があります。例えば上段を「相乗効果（シナジー）」とし、下段は「相乗効果」のみにするなど、どちらかに統一し、片方を省いても良いのではないかと感じました。

それから、91 ページの上のところ「環境全般」についてですが、3 行目に「循環共生型社会」と記載があり、その2 行下には「環境共生型社会」とあります。

おそらく、指している内容としては近い概念なのでしょうが、「環境」という言葉を「循環」に揃えた方が、全体の流れとして統一感があるのではないかと感じました。

今後の社会づくりを考える上でも、「循環」は非常に重要なキーワードであるのに対し、「環境」という言葉は幅広く使われますので、この部分については「循環共生型社会」という形で統一した方が良いのではないかと私は考えました。

それから、「気候変動・エネルギー」の2 行目に出てくる「ネットゼロ」という用語についてです。一般の方には馴染みのない言葉です。

「ネットゼロ」とは、カーボンニュートラルに近い概念であり、排出量から吸収量を差し引いて実質ゼロにするという考え方を指します。ただ、一般の方からすると、いきなり「ネットゼロ」と書かれても、意味が分かりにくいでしょうから、もう少し分かりやすい記載にした方が良いのではないかと感じました。

それから、その下の行（「気候変動・エネルギー」の3 行目）の後ろの方に「GX」とあります。この「GX」という言葉は一般にはまだあまり馴染みがないと思いますが、いわゆる化石燃料をできるだけ使わず、クリーンなエネルギーを活用していくための変革やその実現に向けた活動のことです。

ただ、ここでは「GX」という言葉だけが突然出てきており、しかも後ろに「経済移行」という文言が続いているため、読み手にとっては意味がつかみにくいと感じます。

特に、この「気候変動・エネルギー」の部分は計画の中でも非常に重要な項目なので、もし「GX」という用語を使うのであれば、「GX とは何を意味するのか」を簡潔に補足しておくと、読み手は理解しやすいのではないかと思います。

その次の「生物多様性・自然再興」の部分についてですが、ここは今後、環境省として最も力を入れたい分野です。

地球温暖化問題には CO₂を削減するという大きな枠組みがあります。一方で、自然環境をどう保全していくかという別の大きな枠組みがあります。CO₂削減については、世界的に企業の取組が進んできていますが、自然環境の保全分野は企業の関与が遅れており、なかなか動きが見えにくい部分です。

そこで環境省は昨年あたりから、企業に自然環境の保全へ積極的に関わってもらう方針を打ち出しました。それが、ここに記載されている TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）と SBTs for Nature（自然分野の科学的根拠に基づく目標設定）の部分です。両者は似ていますが、やや異なる役割を持っています。

ここで環境省が言いたいことは、企業にはこれまでの CSR 的な少し社会貢献しています

というレベルではなく、積極的に自然環境に関わってほしいという点です。

私は前回も前々回も申し上げましたが、行政（国・県・市町村）は方向性を示す役割を担っています。奈良県として方針・指針を示し、それに基づき事業者や企業、あるいは市民や市民団体が実践していくという構図です。

ただ、NPO や市民団体はどうしても資金面で厳しい状況があります。一方で、事業者や企業には内部留保を持つ大手企業もあり、比較的余力がある場合があります。これまでのような、CSR の一環として、環境保全活動を少し実施しているという程度の関わり方とは異なり、最近では企業が財団を設立する例も出てきました。しかし、これもまだ困っているところへ支援として資金を出すという段階に留まっています。

環境省が求めているのは、そうしたレベルではなく、企業が積極的に自然環境の保全に関わっていく姿勢です。例えばサントリーは、40～50 年前から日本野鳥の会の活動に非常に積極的に関わり、企業の中でも突出した取組を続けています。現在も継続的に自然環境への貢献を行っています。環境省としては、サントリーのように、企業活動の中に自然との関わりを上手く組み込んでいく企業が増えてほしいと考えています。

この部分は、文章をもう少し多くしていただいた方が、今後の環境省あるいは県としての意思表示が伝わるのではないかと思います。

◎佐藤委員

加えて申し上げますと、「生物多様性・自然再興」のところには丸が3つあります。一番上の内容はこのままで良いと思いますが、二番目と三番目は順番を入れ替えた方が分かりやすいのではないかと感じました。

理由として、最初の丸は一つの「方針」を示しています。三番目の丸は「戦略」にあたる内容で、二番目の丸は「戦術」に位置づけられるものです。

時間的な流れを考えると今の順序になりますが、話の流れとしては、「1. こうした方針でいきます」⇒「2. そのための戦略はこうです」⇒「3. 具体的な戦術として、例えばこういう取組があります」という並べ方の方が理解しやすいのではないかと思います。

□事務局

直せる部分については、ご意見を踏まえて対応したいと思います。

◎増田部会長

こちらは参考資料ですので、比較的自由に修正できる部分だと考えています。

◎長島委員

24～25 ページの横断的視点（『守る』、『活かす』、『未来へ紡ぐ』）のロゴについてです。今回、事務局からご説明いただいた内容では、「ロゴを施策体系図に入れたものの、ロゴを

入れたことによる違和感の意見を他の委員から受けている」というお話でした。

また、20 ページに、横断的視点設定による相乗効果発揮の文章を入れたという説明もありましたが、このロゴを最終的にどう扱いたいのかがよく分かりませんでした。

つまり、20 ページに相乗効果の文言を入れたので、今回このロゴは外したいという意味だったのか、それとも、現状のように関係性の高いものだけをロゴとして載せて、このまま残したいということなのか、その点を確認させていただきたいです。

□事務局

考え方によって解釈が分かれる部分でもありますし、ロゴを付けることで、この施策は特定の視点にしか関係しないと受け取られる可能性もありますので、ロゴは削除した方が良く考えております。

◎長島委員

ありがとうございます。

ということは、24～25 ページに記載されている小さなロゴと赤字の部分については、削除する方向でご提案いただいているという理解でよろしいですね。

◎事務局

そのとおりです。

◎長島委員

私としても、ロゴが入ると文字が増えて見づらくなるという点が一つあります。また前段の説明で、これら全体が『守る』、『活かす』、『未来へ紡ぐ』の位置づけであるという文言を入れていただいていますので、ロゴはなくても良いではないかという印象を持っています。

もし残すのであれば、24 ページの「※横断的視点と環境分野施策の関係性について」の部分に、今回示したのは特に関係性の高いものを明示しているという趣旨を付記する方法もあるかと思いましたが、ロゴはなくても良いというのが私の意見です。

◎増田部会長

実は私自身も、『守る』、『活かす』、『未来へ紡ぐ』のロゴを一部の項目だけに付けるのは少し不自然だと感じていました。全体として見たときに、どの施策にも関わる視点だと受け取れますので、むしろ無い方が自然ではないかと思い、その旨を提案していました。長島委員、ご意見ありがとうございました。

それでは、このロゴを外す方向で良いかどうか、皆さんに確認させていただきます。

いかがでしょうか。外してしまってよろしいでしょうか。

では、皆さまのご意見を踏まえまして、ロゴは削除するということで進めたいと思います。

◎谷委員

先ほど佐藤委員のご意見にもありましたが、「GX」や「TNFD」など、91 ページ付近の参考資料には一般の方には見慣れない用語が多く出てきます。

もちろん、今の時代は検索すれば分かるとはいえ、後ろの「環境用語の解説」に記載があればいいのではないかと思います。

他にも「SBTs for Nature」など、解説を入れた方が良いキーワードがいくつかありますので、見直しの中で追加していただけるとありがたいです。

一般の方には分かりにくい用語が、まだいくつかあるように感じました。

◎増田部会長

用語集に追加するということですね。分かりました。

◎佐藤委員

今、谷委員がおっしゃったように、私も「環境用語の解説」へ追加した方が良いと思っています。

104 ページをご覧いただきたいのですが、先ほどお話しした「サーキュラーエコノミー」の解説が、ここでは「循環経済（サーキュラーエコノミー）」という形で用語集の「サ」の項目の最初に出てきます。

この「循環経済（サーキュラーエコノミー）」については、105 ページの「循環型社会」の用語の次に、そのままの形で移動してはどうかと感じました。今の場所では「サ」と「ジ」が混合しており、違和感があります。

また、105 ページの「小水力発電」の前に「食品リサイクル」等の用語を追加してはどうでしょうか。「食品リサイクル」に関する記述は 64 ページや他の箇所にも出てきていますし、食品ロスも計画の中で繰り返し扱われています。

そのため、「食品リサイクル」と「食品ロス」の説明を、簡単にでも追加しておく方が良いのではないかと思います。

そして、51 ページには「奈良県森林環境税」の記載がありますので、このあたりも用語解説の「小水力発電」の次に加えておく方が良いのではないかと思います。

それから、106 ページの「セ」の項目の一番初めに「生態系サービス」を追加してはどうでしょうか。

本文中には、生態系サービスについてあまり詳しい説明が記載されていないので、せめて用語解説には入れておいていただきたいと思います。

生態系サービスには、4つの区分がありますので、用語解説ではその点も併せて記載しておいてください。生態系サービスという言葉は、人によって誤解されやすい部分があります。

誤解を避けるためにも、用語解説にしておく方が良いと思います。

次に、108 ページです。本文 65 ページに「バイオプラスチック」の記述がありますので、それも用語解説に含めていただきたいと思います。

そして、108 ページの「フ」の項目です。

先ほど、食品ロス削減のところで「フードバンク」という表現に統一した方が良いのではという話をしましたが、本編を改めて確認すると、34 ページに「フードバンク」、62 ページに「フードドライブ」の記述があります。読者が「フードバンクとフードドライブは何が違うの？」と混乱する可能性がありますので、用語解説や参考資料のどこかで、両者の違いが分かるように整理しておいたほうが良いのではないかと思います。

また、隣の 109 ページの「リ」の項目の前に、「モビリティ」を追加してはどうでしょうか。「モビリティ」という言葉は本文 31 ページなどに登場していますが、一般の方には少し分かりづらい用語だと思います。

続いて、「リ」の項目に「リサイクル（再利用）」があります。以前は「リサイクル（再利用）」と表現されることが一般的でしたが、今は「リサイクル（再生利用）」が標準的な理解です。「リユース（再使用）」とも混同されやすいため、「リサイクル（再生利用）」と明確に示していただきたいです。

また、現状の説明文を見ると、エネルギーのリサイクル（サーマルリサイクル）やマテリアルリサイクルの話が中心で、ペットボトルなどの「資源を再生してもう一度使う」という、一般の人がイメージしやすいリサイクルの説明が不足しているように感じます。

そのため、よりわかりやすく幅広い説明を追加しておいた方が良いと考えます。

そして 110 ページに、「NPO」、その後に「PCB」があります。その間に日本版 OECD である自然共生サイトを説明するため「OECD」を追加してはどうでしょうか。

自然共生サイトについては本文 56 ページにも登場していますが、一般の方の認知度はまだ高くないと思われます。

したがって、ここでも OECD という用語を追加し、説明の中に自然共生サイトという言葉を入れておくと、一般の方も理解しやすくなるのではないかと思います。

参考資料のところ（90～99 ページ）では色々な用語が登場しています。

例えば、「グローバル・ストックテイク」、「グローバル・ターゲット」、「トレーサビリティ」、「シナジー」、「ウェルビーイング」、「循環共生型社会」、「ネットゼロ」、「GX」、「TNFD」などです。

こうした用語を参考資料に掲載するのであれば、用語解説にも追加しておいた方が、読者にとって親切ではないかと考えます。

◎増田部会長

最後にご指摘いただいた用語についてですが、リスト化して事務局宛てに送っていただけますでしょうか。そのリストに、追加してほしい用語、不要であれば外す用語などをまとめていただければ、こちらでも最終チェックしながら対応いたします。

先程ご説明いただいた内容の中にも、取りこぼしがあるといけませんので、該当箇所だけでもリストにして共有していただけると助かります。

メールで送っていただければ結構です。今お持ちの資料の写真でも大丈夫です。

もう時間が迫ってきましたので、まとめに入りたいと思います。

本日、皆さまから多くのご意見をいただきました。内容としては、軽微な修正だけにとどまらない部分も多く含まれております。

そこで、本日審議した計画案については、部会として概ね了承するものの、各委員のご意見を踏まえた修正を行うこととし、修正内容の調整については部会長に一任させていただくという形で進めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。今回の環境計画策定部会は、非常にやりがいのある内容でした。いろいろとご意見・ご協力いただき、皆さま本当にありがとうございました。

以上で、本日予定しておりました案件の審議を終了いたします。それでは、進行を事務局にお戻しします。

□事務局

ご審議ありがとうございました。

今後の予定としましては、部会でいただいたご意見を基に必要な修正を行った後、12月からパブリックコメントを実施し、その結果を踏まえて環境審議会へ諮りたいと考えております。

これまで4回にわたるご審議、誠にありがとうございました。

以上をもちまして、「次期奈良県環境総合計画策定に係る第4回環境計画策定部会」を終了いたします。ありがとうございました。

以上